

2024年4月17日豊後水道の地震の評価（案）

- 4月17日23時14分に豊後水道の深さ約40kmでマグニチュード(M)6.6(暫定)の地震が発生した。この地震により愛媛県及び高知県で最大震度6弱を観測し、負傷者が出るなど被害を伴った。また、この地震により高知県西部で長周期地震動階級2を観測した。
- 発震機構は東西方向に張力軸を持つ正断層型であり、発震機構及び震源の深さから沈み込むフィリピン海プレート内部で発生した地震と考えられる。
- 現在も活発な地震活動が継続しており、17日23時から18日〇〇時までの間に、最大震度1以上を観測した地震が〇〇回（震度6弱：1回、震度4：1回）発生した。
- G N S S 観測の結果によると、現時点では、ばらつきを超える顕著な地殻変動は見られない。
- 今回の地震は、地震調査委員会が「日向灘及び南西諸島海溝周辺の地震活動の長期評価（第二版）（令和4年3月25日公表）」で想定していた領域（安芸灘～伊予灘～豊後水道の沈み込んだプレート内のやや深い地震）で発生している。なお、長期評価では、この領域ではM6.7～M7.4程度の地震が30年以内に発生する確率はⅢランク（*1）で、海溝型地震の中では発生する確率が高いグループに分類されている。

また、今回の地震は、南海トラフ地震の想定震源域内で発生した地震であるが、南海トラフ地震との関係を調査するマグニチュードの基準未満の地震であり、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（*2）と比べて相対的に高まったとは考えていない。
- 過去の事例では、大地震発生後に同程度の地震が発生した割合は1～2割あることから、揺れの強かった地域では、地震発生から1週間程度、最大震度6弱程度の地震に注意が必要である。特に今後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多くあり、注意が必要である。

*1：海溝型地震における今後30年以内の地震発生確率が26%以上を「Ⅲランク」、3%～26%未満を「Ⅱランク」、3%未満を「Ⅰランク」、不明（すぐに地震が起きることを否定できない）を「Xランク」と表記している。

*2：南海トラフ沿いの大規模地震（M8からM9クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が

経過していることから切迫性の高い状態である。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。